

## 第4回四万十市立小中学校再編検討委員会 会議録（要約）

- 1 日 時 平成29年2月9日（木）  
開会：15時30分 閉会：17時25分
- 2 場 所 四万十市役所6階 第1・第2委員会室
- 3 出席者 〔委員〕 庄崎郁信、土森正一、黒川広美、宮崎久、上岡敬、浜田隆文、  
大崎朗、刈谷隆子、岡島喜三、藏内章夫、宮下貞子、松本治彦、山下元一郎  
〔事務局〕 教育長 藤倉利一  
教育次長兼学校教育課長 矢野依伸  
学校教育課長補佐 山崎行伸  
学校教育課主監 今城季紹  
学校教育課総務係長 武田安仁
- 4 議 事 (1) 第3回検討委員会の内容確認について  
(2) 小中学校配置計画（案）について  
(3) その他
- 5 会議の要領
  - (1) 開会  
○課長補佐 〔開会を宣言〕  
  
(2) 会長あいさつ  
○会長 〔あいさつ〕  
  
(3) 配布資料の確認  
○課長補佐  
  
(4) 議事  
**【議事①】第3回検討委員会の内容確認について**  
○会長  
議事に入らせていただきます。第3回検討委員会の内容確認について、事務局から説明

をお願いします。

○総務係長

- ・資料1に基づき説明

○会長

質問、ご意見等ありましたらお願いいたします。

(全員なし)

#### 【議事②】小中学校配置計画(案)について

○会長

それでは次に、小中学校配置計画(案)について説明をお願いします。

○総務係長

[資料2、資料3により説明]

- ・資料2-1の案6は、望ましい規模(小学校90人/校)での枠組み。
- ・資料2-2の案7は、西の学校を2校区に分けた場合。東中筋小・中筋小の統合は69人、6学級となり複式にはなっていないが、将来的に四万十市全体の子どもの数が減っていくことが予想されている中で、将来(統合後)複式になる可能性もあるという状況。
- ・資料2-3の案8は、大用小学校区から中村小学校への通学時間を考慮し、大用小・蕨岡小の統合としたもの。42人、4学級となり複式が解消されないままとなる。
- ・資料2-4の案9は、案7と案8両方を反映させたもの。
- ・案8と案9は、北部の学校(大用小・蕨岡小)が複式のまま残ってしまうことなど、課題があるという状況。

○会長

小学校について議論を進めていきますが、資料3がわかりやすいと思います。蕨岡小、大用小と東中筋小、中筋小を独立させるのかどうかを検討する資料になると理解しています。ご意見をいただきたいと思います。

○委員

いじめの問題が全国で取り上げられています。この会は、理想だけでなく、現実を直視して学校再編について考えていかなければならないと思います。

○委員

ある会合で、学校再編をするなら何を重要視するか聞いてみました。小学校では「安心、安全で楽しい学校」、中学校では、「学力を上げること」に分かれます。この計画案が、通学するうえで安全であるか実際に確認してみました。441号や下田方面、八束方面など、夕方の街灯、防犯灯設備が整っていません。中学校に関しては、皆にもまれて、高い学力を身につけてもらいたいということを知りました。

○委員

いじめの問題については、小さい学校が統合すると心配される部分もあるので、慎重に取り組んでいくことが大切だと思います。

○委員

再編について、ある小学校の保護者の方は気になっているみたいです。通学等について心配などないか聞いてみたが、今現在も街灯などが不足していることから送迎している方が多いみたいです。

○委員

職場関係の子育て世代のお母さんに学校再編について聞いてみたんですが、ある程度仕方がないが、やっぱり通学路の点検、安全確保はしてほしいということがありました。あと小規模のメリットもあるのではないかという意見もありました。

○副会長

子育て世代の友人からいろんな意見は聞きます。学校再編については理解はできるが、それぞれ理由、意見があって、なかなか答え（具体策について）が出ない、それはこの会も同じではないかと思います。とって何年もこの会で議論を続けてもいけないので、全員が満足することは難しいかもしれないが、ある程度納得できる案を探していかなければならないと思います。

○委員

それぞれの地域で学校に対する認識が違う訳です。効率も考えなければならないが、いじめ問題なども含めて時間をかけて検討する必要があると思います。

○会長

児童生徒数の推計などから「統合はやむを得ない」というコンセンサスは全員あると思います。この会では、具体的にどう実現していくか、何らかの形をつくって、それに対して、通学路の問題とか、そのほか考えられる意見を附帯して教育長に答申し、それをもとに教

育委員会が地域に入って意見をききながら再編計画を作っていくものと思っています。

○委員

そういう進め方をするにしても、理想と現実問題の考え方を併記したものをつくっていかなければならないと思います。

○会長

併記というのは、附帯意見ということでいいですか。

○委員

はい。

○委員

いじめの問題などを考えると急ぐ必要もないし、丁寧に話し合いをしてはどうかと思います。ただ、この会の答申がまとまったときに、PTAにはどう説明していくのか、地域も関心がありますが、地域に対しても説明していくのか聞いておきたいです。

○教育長

理想だけで進めるということではなく、現実もみながら、この検討委員会では検討していただき、答申をいただきたいと思います。そして、それを基に教育委員会で議論していきますが、それらの過程で区長会、PTA等で状況説明することも積極的に行っていきたいと思っています。また各地域にも説明にまわりご意見もいただきながら、現実合った再編計画をつくっていきたい、そして、その再編計画について、ある一定のご理解を得られたら、通学手段とか、どのような学校をつくっていくかという具体策について、ご意見を聴きながらまとめていきたいと思っています。

○委員

早急に取り組まなければならない大川筋、大用地区などは、教育委員会の方で継続してやっていただいて、この会では、その先の再編のあり方について考えていく必要があると思います。中筋中とか大川筋中とか、専任の先生がいないという状況があるので、これは早急に教育委員会が解決する問題だと思っています。

○会長

平成20年度の再編計画は今も生きています。その中で、緊急に取り組まなければならない学校については、具体的に動いているんでしょうか。それによっては、おっしゃるとおりだと思います。

○教育長

まずは極小規模の中学校から再編に取り組むという方針で、大川筋地区、大用地区に何度か説明に行かせていただきました。そういう中で、両地区の中学校が2学級になり、現在は、蕨岡中、中筋中も2学級になってくるという状況で、また中村中、中村西中以外は、小規模になってきたということがございます。そういうことから、全体を見直す必要があるということで、この検討委員会を立ち上げていただいたところです。

○会長

2回統合を経験させないとすると、中学校から取り組んで、そのあと、小学校ということになるかと思います。中学校については、すぐに作業に取り掛かる必要があります。

○委員

すぐに取り組まなければならない学校は早くした方がいいと思います。2回統合を経験させないということもあるんですが、やむを得ない状況の中では仕方ないと思います。保護者の望む環境ではなくなっているので、早めに統合の枠組みを決める方がいいと思います。

○会長

大川筋中学校は、ずっと複式が続いてますか。解消されたことはありますか。

○委員

十数年前は複式ではありませんでしたが、そのあと複式になり、先生は後川中学校から応援に来ていただいていたいました。

○委員

保護者の方は準備ができていないのではないかと思います…。もう一回、説明会などすれば緊急性のある学校などは、解決できるのではないかという気はします。

○委員

約10年間複式が解消されない理由は、統合に反対される方がおいでということですか。

○会長

そういうことだと思います。

○委員

やむを得ず2度の統合を経験してしまう学校があっても仕方ないと思います。本当に現場

では困っている先生やいつ統合するのだろうという保護者もいますので、この会の検討とは別にアプローチをかけていただいた方がいいと思います。

○会長

答申としては、中村地域の中学校は2校区が適正である、ただし、緊急性のある学校については早めに対応するべきなどという意見を付けることになると思います。

○委員

東中筋地区からは、第1段階では中筋と東中筋をまず統合した方がいいという意見も聴きます。

○会長

この会は、ある程度地元の意見など想定しながらも、「形」をつくっていかないと前に進まないと思います。当然、地元への対応や通学の問題などは附帯意見としてつけることになります。

○委員

通学の問題ですが、基本的に送り迎えする必要があると思います。

○委員

緊急を要するところを先に統合すると、2回統合するということにもなります。2回の統合は教育上問題があるのでしないという意見が多かったと記憶しています。そういったことや、いじめの問題など統合と関係はないのか、もう少し時間をとって議論をしてはどうかと思います。

○会長

2回の統合は避けるという意見はでしたが、小学校で2回、中学校で2回の統合は避けるということでしたね。中学校を先に案のとおり2校に統合すれば2回の統合は起こりえないことになります。

○委員

東中筋中学校と中村西中学校の統合についてですが、中村西中が奥まった場所にありますが移転することはどうなんでしょうか。

○委員

以前は現在の東中筋中学校の谷から中村西中学校に道路を抜いて、国道を迂回せずに行け

るような提案もありました。

○教育長

いじめの問題については、深刻な問題で統合するとなれば真剣に考えていかなければなりません。そのためにはこの会で議論していただくことは非常に重要であると思っています。西部地区の中学校の場所の問題は、経費も伴いますので、今この場ではお答えできませんのでご理解いただきたいと思います。

○会長

中村中学校、中村西中学校に統合した場合、受入れのキャパシティはありますか。

○教育長

はい、あります。それから、緊急性のある学校から順番にというお話がありました。これまで大用、大川筋地区に行かせていただきましたが、なかなか保護者や地元の皆さんの理解は得られませんでした。そういう中で、他の学校も複式になるという状況になりました。今、部活動で指定校以外の学校に行きたいという申請がたくさんあります。そういうことから、全体的に将来を見据えた再編計画というものをここでしっかり作っていくべきではないかと考えています。

○委員

中学校に関しては、大川筋とか大用とか緊急を要するところもありますし、部活動なども中村中学校に野球で行く、東中筋中学校にテニスで行くなどフラットに考えています。県立中村中もありますし、私立に行かれる方もいますし、3校（西土佐中含む）でいいのではないかと思います。

○会長

前回の会で中学校は西土佐も含めて3校が妥当であるということがありましたが、これについてご意見をお願いしたいと思います。

ここで5分間休憩とします。

—休憩—

○会長

再開したいと思います。今後の進め方についてですが、この会の答申内容をもって教育委員会が地域に入り、そこでいろんな意見を聴きながら再編計画をつくっていきます。その

土台となるものですので、こうあるべきであるというものを検討していただきたいと思  
います。ただし、考慮すべき点はたくさん盛り込んでいただいて答申を作っていたら  
と思います。

中学校は、中村地域で2校で決定ということで、具体的には附帯意見をつけていくとい  
うことよろしいでしょうか。

○委員

附帯意見としては、3校（西土佐中含む）にするまでのスケジュールや子ども同士、保護  
者同士のコミュニケーション、交流などになると思います。

○委員

子ども目線で再編をどう考えるか、中学生になると事情もわかると思うので、ここで話し  
合ったことを地域に説明するときに、子どもさんも交えろとか、学校に出向いて子どもさ  
んに説明してあげるとか、そういう機会があるといいと思います。

○会長

そういう意見を盛り込んだ答申内容にして、それらも踏まえ説明を尽くしていくとい  
うことでいいですね。

○委員

それは大事なことです、小学校の1年生、2年生には解るだろうか。遠くなるから嫌  
だという意見しか出ないと思います。

○委員

どの地区も附帯意見をつけた答申にしてほしいということになると思います。

○会長

地区ごとの具体的な条件などは、あとの教育委員会と地元の協議の中で検討していくこ  
とで、ここでは通学の問題など全体的なことを附帯意見として盛り込んでいくことを考  
えていますが、地区のことを考えた場合、ケアが必要な事項があれば、ここで検討して  
もいいと思います。

○委員

現実問題として、地元との協議の中で統合先についていろいろな意見も出てくるかもし  
れません。3校（西土佐中含む）としておいて、附帯意見として盛り込んでおけばいいと思



いますが…。

○総務係長

これまでの意見を踏まえた答申書のイメージとしては、将来推計と課題などから「再編は必要」というものが一つ、次にどんな枠組みが望ましいかということで、あくまでイメージですが、小学校は「どこ」と「どこ」が一緒になって全部で何校が望ましい、中学校は「どこ」と「どこ」が一緒になって西土佐中を入れて3校が望ましい、あと、今まで出てきたように、「地域性や歴史的背景に配慮する」、「学習環境の変化への配慮として交流事業をしっかりとやる」、また「安全安心な通学路の確保にしっかりと取り組む」などを附帯意見としてつけていただくような答申書になると思います。

○会長

中学校は西土佐を入れて3校で附帯意見をつけることとします。続いて小学校の審議をしたいと思います。事務局案についてのご意見をお願いします。

○教育長

委員の皆さんからは、いじめの問題など心配される点も出ているわけですが、その対応策も考えなければならないと思いますので、この場で議論していただきたいと思います。中学校を中村地域で2校にする場合は、この問題に対して、こういう解決策を講じなさいというような意見をいただけたら教育委員会でも議論できると思います。

○会長

そういった附帯意見については、今までもいろんな意見が出てきていますので、次回までに事務局でまとめていただいて、それを基に次回の会議で議論したいと思います。

それでは小学校の枠組みについてのご意見をお願いします。蕨岡小と大用小、東中筋小と中筋小をどうするのか、というのが事務局案になっています。

○委員

東山の方に蕨岡、大用が縦（地図上）でつながるイメージがあるんですが、川登、利岡、蕨岡、大用の枠組みの方が地域としてまとまりがあるのですか。

○委員

前回の会議で、川登、利岡、蕨岡、大用の枠組みは、地域性から課題があるということでした。そこで蕨岡、大用は、東山と統合しても中村と統合しても距離的にはそんなに変わらないので、児童数が増える東山よりも中村と統合する案になっているのだと思います。

○委員

小学校では、2回の統合は極力避けるということにしていますか。

○会長

下田、竹島は東山と統合という案が前回出ました。津波問題ということを考えれば、八東も含めて向こう（東山、具同）へ統合ということですね。

○副会長

校区のしぼりはどうなっていますか。

○教育長

今の校区は住所地で決まっています。

○会長

下田、竹島、八東の統合という案はどうですか。

○委員

下田、竹島、八東のどの校舎も新しいです。1学期は八東で、2学期は竹島でという運営はどうでしょうか。そうすればスムーズに一緒になれます。

○委員

それは有りと思います。学校に行きにくい子どもが自分の気持ちを切り替えるのは学期の始まりとか、年の始まりなんです。環境が変われば目先が変わりますので楽しくなるということがあります。

○委員

大用と蕨岡は、大用の方が校舎は新しいですので、大用小へ統合するのも有りかなと思います。

○会長

大用小は特認校ですが、現在は希望がないということでした。

○委員

中学校を2校区にした場合、校区は撤廃するのがいいのか、しないのか…。

○教育長

特区などで校区なしということもできるかもしれませんが、現実には校区はあります。その中で、配慮すべき理由がある場合には、校区外の申請をしてもらえれば認めていくということになると思います。

○会長

蕨岡小、大用小を独立させる案と、中村小と統合する案についてはどうでしょうか。

○委員

三つ又や常六から通学している子どもは現在どれくらいいるのか、今後どのような推移になっているかわかりますか。

○総務係長

現在、大用小に就学している子どもさんは、三つ又から3人で2年と3年と4年、常六から2人で2年と4年です。住基上、この二つの地区の0歳から6歳までの子どもさんはいません。

○委員

竹屋敷と勝間からはどうですか。

○委員

竹屋敷からは1人、蕨岡小に通っています。

○総務係長

川登小学校へ勝間地区から通学している子どもさんは、2年、5年、6年に一人ずつ、住基上の6歳以下が、2歳と5歳に一人ずつです。

○副会長

平成34年に1500人の児童がいるとして、まず適正な学校数を決め、どこの学校に行きたいかアンケートをとり、上から5～6校決めたいうえで好きな学校へ行ってもらおうというのはどうでしょうか。90人以上という規模を考えたら、14校でも大丈夫ということにはなりますが…。

○委員

大きい規模の学校を分けることは困難です。

○委員

今話し合っている再編計画が、実現する想定 of 年度はいつ頃になりますか。

○教育長

中学校を統合するとすれば、校舎の改修などいろいろなことを考えた時に、平成33年度が最短ではないかと考えています。

○会長

中学校と小学校を並行して進めるということではないですね。中学校を最短で平成33年度、小学校がそのあとということですか。

○教育長

今はそのように考えています。

○会長

小学校は状況が変わっている可能性は十分あるということですね。

○委員

現場としては子どもの負担が一番懸念されるので、2回統合をしないということは必要と思います。

○会長

東中筋、中筋などは通学時間の問題はあまりないと考えていいですか。蕨岡、大用と東中筋、中筋の統合とした場合、統合後も児童減少がおこることは見えてますか。

○総務係長

小学校児童の推計は、住基がベースとなるので6年先までしか推計していません。

○委員

子どもたちが教育を受けるうえでの理想としては、この「案6」だと思います。

○委員

1時間の通学は、365日のうち200日以上毎日行われるので、小学校低学年にとっては負担といますか、時間ももったいないと思います。また、放課後の友達と遊ぶ時間の問題や休日に友達と遊ぶために遠くまで出てくる必要がある、そういうことも考える必要があると思います。あと、大規模校に馴染めない子どもさんが行けるような学校もどこか

一つあれば理想だと思います。

○会長

低学年児童の長時間の通学は負担かなと思う反面、止むなしかなと思う一面もあります。そこは、放課後の学童保育などを充実させるとか工夫できないか、あと、不登校などの事情のある子どもさんに対しては、ふれあい学級などを充実させることはできないか、学校までつくととなると現実的にどうなのかというところがあります。個人的な意見です。

○委員

学童施設は、仕事がありますが6時には迎えに行く必要があります、あと施設の広さの問題から3年生になると受入れが困難な現状もあります。統合したときは、大きな施設を構えるとか、そういうことも附帯意見として必要だと思います。

○教育長

そのことは重要なことで、統合ということになれば、そういうことも考えていくべきだと思います。

○委員

東山に424名、13学級の推計（平成34年度）ですが、教室が16しかない中で、特別支援学級が今3学級あります。今からの教育というのは、習熟度別とか分割授業といって学年を分けてきめ細かな指導をしていくということが必要で、教室数も大事になってくると思います。実際中学校はすでにそういう形でやっています。そのあたりも附帯意見としてお願いします。

○教育次長

再編するとすれば、受入れの児童の数によって学校の規模は検討しなければならないと考えています。具体的に東山小学校でしたら建築してから40年近くになり、大規模改修の時期に入ってきています。再編ということになれば、児童数によっては改修と増築ということもあろうかと思っています。私たちとしては、中学校を先行する必要があるのではないかというイメージは持っています。地元への説明、条件整備、交流などを考えると先ほど申しましたように最短でも平成33年4月になると考えており、中学校の再編のあと、小学校に入っていくということでないかと困難ではないかと考えています。それまでの間に地元との協議が整えば再編も考えていかなければならないと思っています。

○会長

前回までのご意見も鑑みて、案6が望ましいのではないかと思いますがいかがでしょうか。

中学校については、西土佐も入れて3校、小学校については、西土佐も入れて5校という方向で、次回、附帯意見として案を事務局にまとめていただいて、それをたたき台にして議論していただき、答申の骨格を決めたいと思いますがいかがでしょうか。

○委員

案6となると東山小は、統合して424人になる見込みで、収容能力がない計画になりますが…。

○教育長

統合によって増える学級数の問題ですが、中村中学校、中村西中学校においても分割授業、習熟度別に対応する教室の数を考慮して検討していますので、当然、再編することになれば、そういうことは考えていかなければならないと思っています。

○会長

本日の内容をまとめますと、小学校、中学校の再編案は以上（先に説明）で、時期等につきましては、まず中学校を先行させる、期間的には最短でも4年くらい、そして、中学校を再編した後で小学校に取り組んでいく流れでよろしいでしょうか。

— 全員異議なし —

○会長

それでは、その他で何かございませんか。

— 全員なし —

ないようでしたらこれで議事は終了し、事務局から連絡事項をお願いします。

○総務係長

次回の会議は3月下旬に開催したいと思います。資料の方は、附帯意見（案）をまとめて、答申書の内容に近いものになりたいと考えています。以上です。

(5) 閉会

○教育長 [あいさつ]